

今年度は本事業に取り組む団体を募集する前に、事業の内容や取り組みのポイントを解説するセミナーを開催し、応募を検討している13コミ協、27名が参加しました。

内容

- 事業のねらいと内容説明
- 講義「地域課題を解決する事業の組み立て方」
- 令和5年度実施団体の取り組み紹介



事業内容の説明の後に、昨年同様「地域課題を解決するための事業の組み立て方」をNPO法人まぢラボ・斎藤主税氏が講義。事業の組み立てにおいては、取り組む前に「段取り」をしっかりと行い、根本的な目的や達成目標、テーマに関する現状や前提条件など事業の「根幹」となる点をまず明らかにすることがポイントです。また、課題と考えていることをより具体的にしながら深掘りしていくことで、手の打ちどころが見つけられやすくなります。

昨年度から取り組みを始めた4団体の発表も参加者にとって学びと刺激になり、「課題の発見や深掘りの重要性がわかった」「若い方々の活動がすばらしい(うらやましい)」「とにかくやってみることが大切」「あらためて問題を考えたい」といった感想が寄せられました。

セミナー後の実施団体募集・審査を経て、今年度は3団体が実施することになりましたが、セミナーでの学びを参加団体の今後の活動に活かしていただくことを期待します。

実施団体情報交換会

令和7年2月6日(木)新潟市市民活動支援センター

実施団体情報交換会は、本事業に取り組む7団体がそれぞれの内容や進捗をふりかえるとともに、他団体の取り組みから新たな視点やヒントを得てさらに推進させていくために開催しました。

内容

- 各団体の事業概要と実施状況の報告
- 実施団体どうしの情報・意見交換
- 次年度以降の活動に関する情報提供

大雪の影響で急遽参加できなくなった団体もありましたが、各団体で事前に取りまとめた取り組みの内容や進捗状況を順番にスライドで発表、発表を聞いた団体から質問を出していただき答えるという形式で進めました(欠席団体は伴走支援者が報告)。質問によって取り組み内容を再確認できたり、質問以外に出された助言や感想は各団体の励みになりました。その後は、3グループに分かれて意見交換。目的や目標の大切さ、若者や女性が参画できる環境づくり、地域活動の見える化と周知など多様な話題が出された他、それぞれの内容や進めるうえでの工夫をより詳しく聴いたり、悩みを共有したり、と大いに盛り上がりました。

他団体の取り組みからさまざまなヒントを得て、あらためて自分たちの取り組みを見つめ直すことや、より進め



ていこうという気持ちが高まったと言えます。こうした団体どうしの情報交換による学び合いは、重要な機会であることも再認識できました。

活動内容を整理して発表することは自分たちの活動を広く伝えるスキルの向上にも役立ちます

令和7年度は、全コミ協を対象にした研修会を開催し、今年度から地域力UPチャレンジ事業に取り組んだ3団体の事例紹介などを行う予定です。詳細は別途ご案内しますので、是非ご参加ください。

地域力UPチャレンジ事業 ニュースレター

発行：新潟市市民協働課 (TEL) 025-226-1105
協力：NPO 法人まぢラボ

「地域力UPチャレンジ事業」は、地域の困りごとを解決しながら持続可能な地域づくりを進めるため、令和5年度から始まった支援事業です。

地域の団体が自立して地域課題の解決ができるよう、課題の深掘りから事業計画づくり、実践まで伴走型で新潟市と専門家が支援します。

今年度は、市内全コミ協を対象とした研修会「地域課題対策実践セミナー」からスタート。参加したコミ協のうち3団体が本事業を通じて地域の課題解決に取り組むことになりました。

研修会以降は各団体ごとに伴走支援を受けながら事業計画づくりに向けた調査や検討を進めました。チームで進める事業はメンバー同士の意見を集約することや、事業の根幹となる目的や目標、現状の共有が必須です。そこに時間がかかった団体もありましたが、明確にできたことでその後は一気に進みました。

2月には、昨年度から実施している4団体も含めた7団体で「情報交換会」を実施。各団体の活動や検討状況の報告と意見交換によって、それぞれの取り組みの後押しとなる学び合いとなりました。

どの団体も目標に向けて着実に取り組みを進めています。



〈地域課題対策実践セミナーのようす〉事業の説明や講義のほか、昨年度から取り組んでいる4団体より事業計画について紹介いただきました。

令和6年度の地域力UP チャレンジ事業のプロセス



令和6年度から
スタートした団体はこちら!

取り組み内容は中面をご覧ください

- 濁川地区コミュニティ協議会 (北区) にごりかわ未来プロジェクト
- 曾野木地区コミュニティ協議会 (曾野木もりあげ隊/江南区) 田んぼマルシェプロジェクト
- 小須戸コミュニティ協議会 (秋葉区) 町屋・空き家の再生とまち歩きガイドの育成

令和5年度スタートの上所コミ協・西内野コミ協・岩室コミ協(間瀬未来会議)・角田コミ協も作成した計画に基づき、取り組みを進めています。

令和6年度のプロジェクト概要

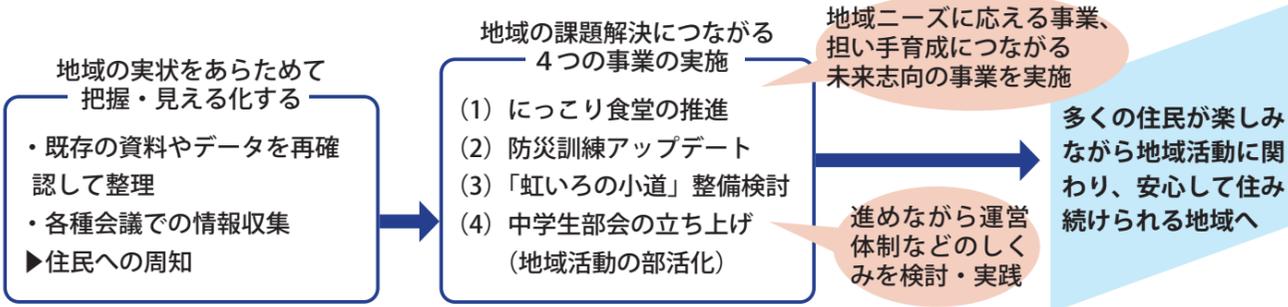
にがりかわ 未来づくりプロジェクト

濁川地区コミュニティ協議会



市内の多くのコミ協が悩んでいる地域活動の担い手不足。濁川コミ協も同様であり、その解消につながる**地域活動と組織のあり方を社会の変化に応じてアップデート**しなければ、と考えていました。まずは、プロジェクトメンバーどうしの想いや地域の状況を対話することからスタート。何にどんな手を打つかなど話し合いには時間がかかりましたが、「何のために行くか」という根本の共通認識ができ、そこからはやるべきことがどんどん決まっていきました。

特徴的なのは、「**取り組みを進めながらより良く変えていく**」。活動も組織も最初から完璧を求めるのではなく、実践を通じて少しずつより良いあり方を見い出して転換していきます。取り組みごとに担当を決め、実践に向けた検討を進めています。



田んぼマルシェ プロジェクト

曾野木コミ協（曾野木もりあげ隊）

曾野木もりあげ隊は、曾野木地区の地域活性化を目的に30～40代の小中学校 PTA 役員OB・OGを中心に結成。これまでは地域内の行事等に協力してきました。

活動する中で「協力だけでなく自分たち独自の事業を行おう」と考えたとき、地域内には日々の買い物に困る方が多いと気づきました。加えて、地域への愛着を育みながら多世代が交流する機会も徐々に失われつつあることも気になっていました。

そこで発想したのが「マルシェ」。地域で採れる豊富な農産物やグルメなどを販売する店舗を集め、**買い物をしながら多世代が楽しめる場をつくる**ことにしました。目指すのは**地産地消・曾野木版**。単なるイベントではなく、地域の良さを伝えたり、住民どうしが交流したり、人材を発掘・育成する場として子どもたちにも企画から参加してもらうことを考えています。仕事や子育てで多忙な世代、負担なくできるようなやり方も検討中です。令和7年度は実験的に開催し、地域ニーズの把握と協力者を増やししながらノウハウを蓄積していきます。



これまでの活動のようす(どんと焼きのサポート)

リノベーション 町屋・空き家の再生と まち歩きガイドの育成

小須戸コミュニティ協議会

小須戸コミュニティ協議会では、人口減少・高齢化に伴って増加する

空き家・空き店舗を活用して、近隣住民との交流を図ること、また、小須戸の特色である「**町屋**」を**地域内外へ発信**することを目的に、今回のプロジェクトを計画しました。

元々、小須戸には町屋を再生した「町屋ギャラリー薩摩屋」があり、協議会が主催する「ひな・町屋巡り」などの開催時の会場、まちあるきガイドの拠点として活用されてきました。今後さらに複数の町屋を活用することで、小須戸の「町屋」の魅力をより一層PRすることができ、観光客を呼び込めるようになることも期待しています。

そして、町屋視察研修の際に十分な対応ができるように、不足している**まち歩きガイドの育成**にも取り組んでいく計画です。

令和6年度は自治会にも協力してもらい、協議会エリア内の町屋・空き家を全数調査して、その中からすぐに活用できそうな町屋を見つけることができました。

令和7年度は、町屋のリノベーションを行い、イベント等で活用しながら、地域に開いていく取り組みを進めています。



自治会の協力で行った
空き家アンケートと
現地調査が奏功

令和5年度スタートの団体も着実に取り組みを進めています

上所コミ協〈新駅を地域で育てる〉 ～駅周辺の環境保全と地域活動の輪を拡げる



高校生のデザインをもとにエンブレム作成

JR 越後線・上所駅が3月について開業！この1年、駅と地域の未来について中学生と語り合ったり、新潟南高校生によるデザイン案をもとに活動グッズを制作し、準備を進めてきました。開業後の地域の変化を注視しながら活動を進めます。

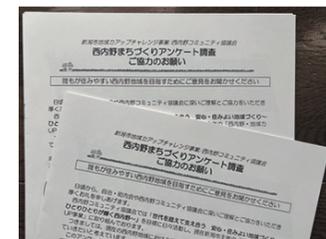
岩室コミ協（間瀬未来会議）～地域の価値向上と移住促進 〈空き家・空き地リユースプロジェクト〉



空き家の状況を現地で確認

空き家の活用と情報発信に向けて、現状調査と将来予測を行いマップ化。多世代の「女子会」も開催し、地域の声も集めました。仲間や協力者も増えつつあります。

西内野コミ協〈西内野 地域力UP チャレンジ事業〉 ～地域活動への参加促進による持続可能な地域づくり



地域の課題と住民ニーズを把握しようと、自治会の協力のもとで中学生以上全住民アンケートを実施。結果を踏まえて具体的な取り組みを検討し、実践していきます。

角田コミ協〈地域の浜茶屋プロジェクト〉 ～移動式の多世代交流の場づくり



7月のそうめん流しは大学生もサポート

令和6年度は「試しにやってみる期」と位置づけ。地域内のイベントの中で食の提供をしながら交流の場づくりを行い、経験を積むとともに周知とニーズ把握を進めました。